

| | | | | | |
|--|--|--|---|-----|-------|
| 科目ナンバー | 年度・学期 | 時間割所属・時間割コード | 開講年次 | 単位数 | 曜日・時限 |
| RDM7-017-83-2 | 2024通年 | 医学教育部(20180) | 1, 2, 3, 4 | 2 | 他 |
| 科目名(講義題目) | | | 担当教員 | | |
| 緩和ケア学理論【Paliative Care】(C9 緩和ケア学) | | | 山本 達郎, 杉田 道子, 平田 直之 | | |
| 学修成果とその割合 | | | | | |
| 1.高度な専門的知識・技能及び研究力……30% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……40% 3.グローバルな視野と行動力……15% 4.地域社会を牽引するリーダー力……15% | | | | | |
| 授業の形態 | その他 | | | | |
| 授業の方法 | 日本癌治療学会が開設しているCancer e-learningに掲載されているe-learningを用いて行う。緩和医療(13コンテンツ)及び精神腫瘍学(13コンテンツ)の中から任意の14コンテンツ以上を受講する。受講後に、理解度確認テストを受け、合格することにより受講を確認する。 | | | | |
| 授業の目的 | 緩和医療学に関する講義では、悪性腫瘍などの生命を脅かす疾患に罹患している患者・家族のQOL向上のために、緩和医療を実践し、さらに同分野の教育や臨床研究を行うことが出来る能力を身につけることが目標となる。 | | | | |
| 学修目標 | 【A水準】 悪性腫瘍などの生命を脅かす疾患に罹患している患者・家族のQOL向上の緩和医療を実践し、さらに同分野の教育や臨床研究を行うことが出来る能力を身につけることが目標となる。 【C水準】 緩和医療・ACPの概念を知る。また患者だけでなく患者家族のQOLにも目を向けることが出来るようになる。 | | | | |
| 授業の概要 | 上記目的を達成するために、①症状マネジメント、②腫瘍学、③心理社会的側面、④自分自身およびスタッフの心理的ケア、⑤スピリチュアルな側面、⑥倫理的側面、⑦チームワークとマネジメントについて講義を行い、討論をする。その他、平成19年度に施行された“がん対策基本法”に関する基本的な知識を身につけることが求められる。症状マネジメントでは、疼痛・消化器系症状・呼吸器系症状など緩和医療で問題となるあらゆる症状の基本的な対処法を学ぶ。腫瘍学では、常に基本的な最新の知識(診断、治療法など)について学ぶ。緩和医療で強調されるトータルペインの考え方を身につけ、癌患者の心理社会的側面、スピリチュアルな側面、倫理的側面の問題点を講義し、討論する。また、実際の緩和医療の現場では、医療者の燃え尽きなどが問題となることが多く、これに対する心理的ケア、またスタッフ同士のマネジメントを学び、実地での臨床に役立つ知識を学ぶ。 | | | | |
| 各回の授業内容 | | | | | |
| 回 | 月日 | 授業テーマ | 内容概略 | | |
| 1 | | 緩和医療・精神腫瘍学 | Cancer e-learningに掲載されているe-learningを用いて行う | | |
| 授業外学修時間の目安 | | WHOのガイドラインを理解しておく | | | |
| テキスト | | 特に指定はせず、講義のポイントをまとめたプリントを配布する。 | | | |
| 参考文献 | | <ul style="list-style-type: none"> ・終末期癌患者に対する輸液治療のガイドライン、日本緩和医療学会、2007年 ・緩和ケアのために医薬品集、編集：緩和ケア編集委員会、青海社、2006年 ・がん緩和ケアに関するマニュアル 改訂第2版、編集：がん末期医療に関するケアのマニュアル改訂委員会、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団、2005年 ・Oxford Textbook of Palliative Medicine, 3rd, Edited by Doyle D, Hanks G, et al., Oxford University Press ・Textbook of Palliative Medicine, Edited by Bruera E, Higginson IJ, Ripamonti C, von Gunten CF., Hodder Arnold, | | | |
| 履修条件 | | 医師免許を有するもの | | | |
| 評価方法・基準 | | 日本癌治療学会が開設しているCancer e-learningの理解度確認テストを受け、合格した後に、レポートの提出を求める。このレポートにより評価する | | | |
| 使用言語 | | 「日本語」による授業(日本語) | | | |
| 教科書・資料の言語 | | 「日本語」のテキスト(日本語) | | | |
| 実務経験を活かした授業 | | 非該当 | | | |